

四. 終わりに

南箕輪村では、集落排水整備事業・公共下水整備事業も完了して河川の浄化が進み、良質な水質を保持していけるような環境整備が行われている。また、河川の護岸工事に使用されたコンクリートのアクなども、年を経て溶出も少なくなっている。そして、村民一人ひとりの水資源やその環境に対する関心が高まってきている。人家や農耕地の影響が比較的少ないと思われる西部地域(標高の高い地域)と人為的汚染や農耕地の影響が多いと思われる東部地区(標高の高い地域)との地下水を比べてみても水質の悪化はそれほど大きくはなく、きれいな水質を保っている方だと言える。

しかし、河川全体ではほとんど護岸工事が行われ、自然本来あるのとは言えず、河川やその周りに生息する生物にとっては必ずしも良好な環境ではなくなっている。河川や海の汚染の約 70 %が生活排水によるものであることをかんがみ、地域住民がより水質保全に心がけ、将来的にはより豊かな生物が生息でき、メダカやゲンゴロウなどが棲み、子ども達の遊び場として活用(利用)できるような河川として、保全していきたい。

五. 南箕輪村の生活環境・自然環境の保全に関わる提言

1. 南箕輪村の良質な水資源を!!

南箕輪村は自然に恵まれ、水資源も豊富で良質な水質が保たれている。特に、^{しんずらしみず}不死清水をはじめとして、数多くの湧水・清水に恵まれ、それを生か(利用)したワサビ作りもかつてほど多くはないが、行われている。この湧水・清水の多さは上伊那郡の中でも特筆できることなので、これらの水質を汚染してしまったり、湧出量・湧出箇所数を減らしてしまったりしない・させない努力をしていきたいものである。

2. 水辺の植物をはじめ、魚や水生生物が生息できる河川の保全を!!

南箕輪村の河川は、それらが用水路であったり用水路が集まった河川であったりするためか、コンクリート製のU字溝であったり三面護岸工法であったり、川底がコンクリートで固められている箇所をかなり多く見かけた。反面、大泉川中流域のように、川底に石を敷き詰め、水の浸透を図って環境を保全する二面工法の場所も見られた。

かつて繁茂していた水辺の植物や河川に生息していた水生昆虫や水生動物(魚類・両生類他)の中で絶滅の恐れがあるもの、あるいは、絶滅したと思われるものなどいくつかの種があろう。

従って、河川周辺への浸水性を確保できるような配慮と、その河川に即した動植物の育つ環境の復元への配慮が望まれる。

3. 水辺・河川・地下水などが汚染されないよう配慮を!!

水質調査のために、沢や支流などに入ってみると、山林や崖、あるいはちょっとした土手で人目に付きにくい所に、空き缶やペットボトルをはじめ、粗大ゴミとして処理しなくてはならないガスコンロ、洗濯機、流し台、ゴミの詰まった一斗缶・肥料袋、粗大ゴミなどを焼却した残骸など、不用意に捨てられた現状も見受けられた。

山林や土手、河川などにゴミや有害化学物質が投げ捨てられることによって汚染されたり、田畑や芝生へ必要以上に撒かれた農薬、化学肥料などが染み込んで地下水が汚染されたりすることもある。

私たちの使命として、人間はもとより動物や植物が清い水を需要できるように、また、魚をはじめ水生生物の住みかを無くさないように、私たちがしっかりと水を守り、きれい

で健康な状態に保っていかなくてはならない。

従って、地域の河川に限らず生息する動植物の生活圏、あるいは、村の文化財などを含めた生活環境、自然環境全体を総合した見地から、定期的な点検活動が強く要請される。

参考文献

南箕輪村産業課資料(大芝高原温泉分析書)、温泉法、温泉必携、鉱泉分析法指針
上伊那教育会研究紀要、環境白書、簡易水質検査法(環境省水質保全局)、
水生生物による水質判定(環境省水・大気環境局 国土交通省河川局 編)
水質分析に関する専門書、他

南箕輪村自然環境調査の会 陸水班
桃澤敏郎、清水 治